

肝炎医療コーディネーターフォローアップ研修会まとめ

高知県肝炎医療コーディネーター

フォローアップ研修会

日時：令和7年1月15日(水) 14:00～17:00

場所：高知城ホール2階 やまもも

時間	内容	講師等
14:00	開会あいさつ	高知県健康政策部健康対策課
14:10	・高知県の各助成制度の説明 ・高知県の各助成制度の実績	高知県健康政策部健康対策課
14:25	・コーディネーターの役割について ・肝炎に関する基礎知識、最新治療 ・肝疾患拠点病院、専門医療機関の役割 ・高知県における肝炎医療の課題、撲滅に向けた取り組み	【講師】 高知大学医学部 消化器内科学講座 病院教授 廣瀬 享 先生
15:25	高知大学医学部附属病院における 肝炎医療コーディネーターの活動 報告	【報告者】 高知大学医学部附属病院 看護部外来診療部 堀野 美香 看護師
15:35	休憩・会場準備（10分）	
15:45	グループワーク	【アドバイザー】 高知大学医学部 消化器内科学講座 病院教授 廣瀬 享 先生
16:35	発表・総評	
17:00	閉会	

〈グループワークの進め方とテーマ〉

下記のテーマについて話し合い、グループの意見を発表していただきます。

1. まずは自己紹介をしてください。
2. 次に、司会、書記、発表者を決めて下さい。
 - ・司会の方は皆さんから意見を引き出して、会を進行させて下さい。
 - ・書記の方は、皆さんからの意見を記録して下さい。（記録した用紙は後日健康対策課まで送付をお願いいたします。）
 - ・発表者の方は持ち時間3分以内で皆さんから出た意見を発表して下さい。
3. その後、下記のテーマに対して、意見交換しグループの結論をまとめて下さい。
4. 最後にグループごとに(1)～(5)の順に口頭発表をお願いします。

〈テーマ〉

- ①【各メンバーの活動内容、検査陽性後（異常値がわかった後）の対応について】
 - 1) 現状活動内容の共有
 - 2) 課題（なぜ実践できていないのか）
 - 3) 実践するために必要なこと（できそうなことは何か）
 - 4) 意見交換の中での気づき、学び

話し合った結果を、今後の活動にどう繋げていくのかを念頭に置きながら、グループワークを進めて下さい。

グループA

現状の活動内容

・初回のコーディネーター研修受講時は肝炎医療の担当だったが、現在は異動して直接関係ない部署にいる人がほとんどだった。なので肝炎患者に関わる機会がないし、ウイルス検査の陽性者もいないので活動としては特別何もしていない。(全員)

課題

- ・コーディネーターとしての知識や意識が不足している。
- ・過去のウイルス検査の陽性者や治療中の人を把握できていない。

実践するために必要なこと

・肝炎ウイルス検査の勧奨

特定健診会場でパンフレットを渡して声かけしている市町村もあったが、受付時に検査できますよという簡単な声かけだけの市町村もあり、必要性なども丁寧に伝えていく

・過去の陽性者のフォロー

把握できるのは市町村なので、陽性者を把握し治療中かどうか確認する。中断者には受診をすすめるなど

- ・予防という観点では、乳児のB型肝炎の予防接種勧奨(母子担当の人)

5) 意見交換の中での気づき、学び

・実際の活動をしてない場合や、部署異動をした場合、いつまでフォローアップ研修を受講していくか迷う。

異動になったから更新しないという人もおり、保健師として肝炎の知識を知っておいた方がいいが、活動しないのに更新するのはどうなのか。

グループB

現状の活動内容の共有

◇臨床検査技師

- ・検査データで肝炎陽性者を確認したら、肝炎対策チームに速やかに報告する。

◇自治体保健師

- ・こどものB型肝炎ワクチンの接種勧奨
- ・妊婦健診や特定健診の機会に肝炎ウイルス検査の受検を勧奨
- ・各種健診で肝炎ウイルス検査の陽性者を確認した際に、医療機関への受診勧奨を行う

- ・肝炎陽性者を把握したら治療の事、生活の事など個別相談にのる

◇産業保健師

- ・治療と仕事の両立に向けてセミナーを開催
- ・小規模企業（産業医が配置されていない企業）の地域の相談窓口として各種相談を受けている
- ・産業医に向けた研修の開催
- ・職場との橋渡し

◇看護師

- ・養成研修受講し、病院内の課題として検査結果の説明をすることを病院として取り組む必要姓を感じたため、病院の医療安全委員会へ報告し、病院内に検査結果を患者に説明するシステムを構築した
- ・医療費の助成等については、肝炎 Co.である SW が窓口で説明を行っている

課題

- ・健康意識の低い方が受検につながらないため、肝炎ウイルス陽性者の掘り起こしができていない
- ・肝炎ウイルス検査についての周知啓発不足
- ・検査値不良者に精密検査受診を勧めたいが、強い勧奨ができない
- ・仕事と治療の両立について働き盛りのフォローが弱い
- ・患者の高齢化や支援家族がいない等で検査結果の説明への理解力が低い方への結果や治療についての説明に限界がある
- ・それぞれの機関だけの活動ではできることに限界があり、切れ目なくつないでいくことができていない
- ・治療につながった方のその後のフォロー体制が整っていないため、治療が中断していないか後追いでできていない
- ・企業に産業医が配置されていない場合、受検後の行動が本人任せになる。職場へのフィードバックも本人同意が必要なため拒否された際は介入することが困難

実践するために必要なこと

- ・肝炎ウイルス検査の周知啓発を行い、受験者を増やす
- ・関係機関との顔の見える関係づくり
- ・各種研修を企画し、肝炎について広く周知を図る

5) 意見交換の中での気づき、学び

- ・病院として取り組みがあまりできていない。また、肝炎コーディネーターとしても活動が

できていない。

- ・新しい治療や各機関の取り組みが研修で知ることができ、知識の更新ができてよかった

グループC

現状の活動内容の共有

- ・新規の対応は近年はほとんど無く、通院していた患者様も治療を終えている。

課題

- ・各施設などでは陽性者の対応について決まり事はあるが、期間が空いているので、きちんとした説明及び対応ができるか不安がある。

実践するために必要なこと

- ・院内の職員に対してもコーディネーターとしての活動について理解してもらえるように努めたい。
- ・看護師だけでなく、他職種にもコーディネーターとして活動してもらえるように人数を増やす必要がある。

意見交換の中での気づき、学び

- ・対応に困った際は、県や大学病院の担当者に連絡・相談を行える事を理解できたので、活用していきたい。
- ・引き続き研修に参加し、知識を深めていきたいと感じた。

グループD

現状の活動内容の共有

- ・医師が主導で動いているため、コーディネーターとして活動できていない。
- ・他科の医師から専門医につなげられていない。

課題

- ・陽性者をピックアップし、治療につなげていくシステムがない。
- ・ここ数年は検査で陽性になる患者がいらないため活動できていない。

実践するために必要なこと

- ・システム作りの話し合いをすることが必要。

- ・新規陽性者がいない分、治療後のフォローにまで力を入れる必要がある。
- ・肝がん、肝硬変患者への支援も行っていかなければならない。

意見交換の中での気づき、学び

- ・症例が少なく、毎回初めて対応する感じになるので、定期的な知識の補充が必要。
- フォローアップ研修会へ定期的に参加

グループE

現状の活動内容の共有

- ・陽性者への対応はドクター主導で行っている
- ・陽性者の数が減少している
- ・金銭面の説明、申請方法の説明、保健所への案内を行っている

課題

- ・院内にコーディネーターがいても数が少ないため、思ったように活動できない
 - ・病院の決め事がないので活動しにくい状況
 - ・コーディネーターが発信者として決め事、体制を整備していくのは大変
- キーパーソンとなる医師からのトップダウン型でないと難しい

実践するために必要なこと

- ・手順・マニュアルの整備
- ・院内で知識を共有できるような勉強会の開催があれば良い

意見交換の中での気づき、学び

- ・コーディネーターだけでは患者支援等が難しいため、Drの協力を得ながら活動していくことが重要。